



'87.5
NO.274
(昭和62年)

=ハンドボール競技会場=
京都国体まで
あと533日

心のふれあう大会を

町議選投票率等調査				
今回有権者数 (人)	今回投票者数(率) (人)(%)	前回有権者数 (人)	前回投票者数(率) (人)(%)	
計 男 女	29,624 14,240 15,384	22,466 (75.84) 10,558 (74.14) 11,908 (77.41)	27,871 13,412 14,459	23,599 (84.67) 11,118 (82.90) 12,481 (86.32)

員④飯岡東原

①共産党・現②四回③会社
建物取引業③三山木初メ

上田 政一(53)

金井かじよ(53)

小林 正路(57)

辻 建二(43)

橋本 享司(52)

吉村 優一(59)

松本 新治(43)

古川 義和(58)

中西 稔(46)

中村 三和(61)

吉村 優一(59)

市田 富雄(60)

①無所属・現②三回③農業
④大住岡村

上田 登(52)

小田 孝信(58)

岡本 嘉治(53)

岡本 茂治(52)

小西 源吾(64)

小林 弘(49)

坂本 一夫(42)

中西 稔(46)

中村 三和(61)

吉村 優一(59)

松本 新治(43)

古川 義和(58)

員④松井ケ丘

①社会党・現②五回③政党

役員④大住東村

①無所属・元②二回③会社
建物取引業③三山木初メ

④大住ケ丘

書士業④草内犬伏

④宮津佐井道内

①社会党・現②六回③行政

①無所属・現②三回③町議

①公明党・現②四回③電気

①無所属・現②二回③農業

④新里ノ内

④新高木

④大住ケ丘

①公明党・現②二回③会社
建物取引業③三山木初メ

☆12☆

町の歌の作詞者

地域の活動も積極的に

歌詞を応募した動機は、「十数年来住んでいた田辺町に何かの足跡を残しておきたい」と思つたことから。昨年大病を患い、今年の初めに

心がけた。特に、町の自然風土と町の未来を表す言葉を組み合わせるのに工夫したという。

「町の歌がいろいろな

所で歌われ、多くの人た

ちに親しんできた」とい

い、「それが『住民の一

体感を生み、コミュニケーションの醸成につながる」と

話す佐藤さん。そのビン

と背筋を伸ばして話す姿

勢はとても七十八歳の

高齢とは思えない。

佐藤さんは、昭和二十

八年から三十三年までサ

ンケイ新聞舞鶴支局長

としてシベリアなどに抑

留されていた旧日本兵の

「舞鶴の引き上げ」に、

新聞記者として立ち合つ

て、ゲートボール場の整

備と緑地帯の管理育成に

力を注いでいる。

趣味は読書で、「もつ

ぱら雑学派」。「町教育

委員会が巡回している移

動図書館の本を全部読み

切りたい」。

最後に「この歌が、六

十三年京都国体で歌われ

る日が楽しみ」とニッコ

リ。その穏やかな優しい

笑顔が印象的だった。

さらに、五十九、六十
年度には新田辺東住宅の
都府知事表彰を受賞され
た。

近年、ジョギングブーム
が高まるにつれて走ること
が楽しむ人が急激に増加
しています。田辺町でも以前にも増し
て走る人を多く見かけるよ
うになりました。こうした

大会があれば、という声が強
まっています。こうした
中で、六十一年七月に体協
所属クラブの一つとして
「田辺走ろう会」が発足し
ました。

発足当時は、三十数人だ
った会員も現在では七十人
に、会員の入会動機も健康
管理、体力づくりを重視と
する人からフルマラソンを
最終目的にする人など、多

くあります。二人が
向かい合って、お兄ちゃん
が弟のボタンをはめて
二人で仲良くしている。やり、ニコニコしている
もう物の取り合いや砂の
かけ合いが始まります。いあるけれど、大ヶガだ
きません。最近では取組み合いの
けはしないで素直に成長
けんかもします。

して欲しいと願っています。
でも、こんな光景を見
じられる。休日には、この三年(一四八一)に示す
庭園をのぞむ方丈の縁側で、その数奇な生涯を終え
た。その下に、腕白坊主が
二人増えたからです。十
年ぶりの出来事でした。

一人っ子だったお姉ち
ゃんの下に、腕白坊主が
二人増えたからです。十
年ぶりの出来事でした。

でも、早いもので今年で
二歳と三歳に。

今は腕白真っ只中、毎

日が戦争のようです。外

でも、大好きで雨でも雪

ともと現在の寺の西方
に、臨済宗の高僧大應国師
が建てたといつて妙勝禪寺が
ある。その寺に眠る「休

は、第百代後小松天皇を父
として應永元年(一三九

四)正月元日に誕生。六歳

で出家し、二十二歳の時に

大應寺の華嚴宗和尚の弟

となり、「休」について

号をおられた。

もともと現在の寺の西方
に、臨済宗の高僧大應国師
が建てたといつて妙勝禪寺が

ある。そして同新聞社を退

職後、隣わざで田京都府

記念して募集した「田辺

町の歌」の歌詞の入賞

者、佐藤純さん(じゅんさん)

田辺東住宅。

五十八年五月に同連盟の

基盤強化と府下の觀光振

興に寄与した功績で、京

都府知事表彰を受賞され

た。

さうに、五十九、六十

年度には新田辺東住宅の

